

第 14 回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 議事要旨

日時	令和 5 年 5 月 18 日（木）午後 3 時 15 分～ 4 時 35 分
場所	武蔵野市役所 812 会議室
参加者	委員長、委員 14 名、事務局 2 名 計 17 名

■配布資料

- 第 14 回 武蔵野市学習者用コンピュータ活用検討委員会 次第
- 学習者用コンピュータ活用実践事例とデジタル・シティズンシップ教育の実践事例の提出のお願いについて（資料 1）
- 「1 年間の予定」について（資料 2）
- 指針の方向性についての提案（資料 3）
- 教員・子ども・保護者へのアンケート内容の検討（資料 4）

■内 容

1 開会

新たに着任した委員からの挨拶

2 事務局から

- ① 学習者用コンピュータ活用実践事例とデジタル・シティズンシップ教育の実践事例の提出のお願いについて（資料 1）

（事務局）

- ・ 既に各校へ周知済みであるが、①学習者用コンピュータ活用の実践事例及び②デジタル・シティズンシップ教育の実践事例をご提出いただきたい。
- ・ 配布したピンク色の冊子に昨年度の実践事例（各 52 例、26 例）及び学習者用コンピュータ活用検討委員会の様子を掲載している。
- ・ 今年度は試行の 3 年目ということもあり、よりの多く先生方から事例を提出していただきたいため、いずれも 1 校あたり、①は小学校各学年 1 例以上、中学校各学年 2 例以上、②は小学校低・中・高学年ごとに 1 例以上、中学校各学年 1 例以上、提出をお願いしたい。

（委員長）

- ・ 各校とも実践事例を蓄積していると思うので、提出をお願いしたい。

② 「1年間の予定」について（資料2）

（事務局）

- ・ 今年度の各回で予定している議題を掲載した。これらはいずれも指針の策定に向けて議論が必要な案件である。
- ・ 生成系A Iについては、夏頃に国から活用に関する方針が示される予定であり、それを受けて9月開催予定の第16回の議題とし、ご意見をいただきたいと考えている。

（委員長）

- ・ これについて、質問や意見はあるか。

（委員A）

- ・ 現状では生成系A Iが使用できないが、学校で話題に挙がるものと思われるため、内容についてヒアリングさせていただきたい。

（委員B）

- ・ 夏休み明けにこの議題を設定した理由の一つに、読書感想文に生成系A Iを使用するような事案がないかを確認したいということもある。これまでも読書感想文を兄弟が作成するような話もあったが、生成系A Iによる作成があった場合について先生方に視点を持っていただく必要があることも想定している。

（委員長）

- ・ 自動生成されるようになると、読書感想文の位置付けについても考えていく必要が生じるかもしれない。

（委員A）

- ・ スケジュールについて、事務局側の都合で恐縮だが、1月開催予定の第18回で完成し、教育委員会において報告する予定である。
- ・ また、他の回での議論も指針へ繋がっていくことをご認識いただけるとありがたい。

（委員長）

- ・ 指針については、今回の他の資料を確認しながら、個別の議題に立ち戻りつつ進めていくということで良いか。

（全員）

- ・ 異議なし。

3 協議

① 指針の方向性についての提案（資料3）

（事務局）

- ・ 学習者用コンピュータ活用の指針に盛り込む内容及び構成について、資料3に記載した。
- ・ 1章で試行期間中の経緯をまとめる。
- ・ 2章で文具としての活用及び次期端末のあり方、3章で実体験とのバランスについて、4章で児童・生徒がどの場面で学習者用コンピュータを活用するか自ら選択できることについて記載する。
- ・ 5章で児童・生徒の資質・能力を養うこと、またそのために必要なスキルである学習者用コンピュータの操作能力を養うことについて記載する。
- ・ そのための取り組みとして、6章では教員の能力を向上させること、7章では学校と家庭・地域との連携について、8章では教育委員会による環境整備、研修及び家庭への啓発について記載する。
- ・ この内容について、ご意見をいただけるとありがたい。

（委員長）

- ・ 質問や意見はあるか。

（委員C）

- ・ この資料は、指針に含めたい内容を記載したものか、それとも指針の章立てを示したものか。

（委員A）

- ・ 指針の章立てを示したものである。

（委員C）

- ・ そうであれば、作成が大変になるのが懸念される。

（委員長）

- ・ どのような点において大変になりそうか。

（委員C）

- ・ 活用に関する内容を2章から4章の3つの章で記載することについて、活用の背景にある授業力を高めることの視点が必要ではないか。
- ・ どの章に何を記載するかについては、意外と最終段階で決まる。まず指針に盛り込みたい内容を検討し、その後に構成を考えた方が容易では。構成にとらわ

れずに意見を取り入れた方が、指針の内容が充実すると思う。

- ・ 教員向けの研修については、研修を実施するというより、研修を実施する場を提供することに注力すると良い。内容や講師の選定について、選択の幅が広がっていくのではないか。

(委員長)

- ・ 現段階ではこのような章立てで考えているということか。

(委員 A)

- ・ その通りである。また、指針に含める内容として想定している事項を記載している。

(委員 C)

- ・ 指針に盛り込む内容としては概ね良いと思う。構成を検討するのは後の方で良いと思う。

(委員長)

- ・ このような内容で進めていくということによろしいか。他に意見等はあるか。

(委員 D)

- ・ 質問と意見が1点ずつある。2章の「次期端末」は、現在使用しているChromebookの終了後に使用する端末のことか。
- ・ 2章から4章については内容として重複するところがある。児童が学習者用コンピュータを活用するための内容を検討していくと、2章及び3章の内容にも重なるところがあり、整理が難しそうだと感じた。

(委員長)

- ・ 適切かつ効果的に活用していく中に、読書活動との両立に関することや、文具としての活用についてもオーバーラップしてくる。

(委員 C)

- ・ 適切かつ効果的な活用の前提として、様々な教育活動に活用していくこと、武蔵野市としては特に何に力を入れていくか、という内容になると思う。
- ・ 次期端末への更新を検討する際には、更新にかかる費用をどこが負担するかが課題になることが想定される。

(委員長)

- ・ 次期端末についても本委員会にて指針として検討していくということか。

(委員 A)

- ・ まずは先生方からご意見をいただきたい。学習者用コンピュータのように市で調達する、BYODとして各家庭で購入する、などといった選択肢が考えられる。サブスクリプション型の実現可否についても調査したい。使用開始から3年目を迎え、今後使用できるのがあと2年間というところで、学校現場としてどのようにお考えかお聞きしたい。

(委員 B)

- ・ 授業展開するにあたり、どのようなスペックが必要かをお伺いしたい。高性能を追求するときりがないので、満たさないと支障が出てしまう最低限の基準を教えてください。その方が先生方の意見を反映しやすいのではないか。

(委員長)

- ・ 現在使用している学習者用コンピュータの使い勝手、児童・生徒が使用している様子、希望する機能、これから文具のように家庭での購入となったときに想定されるメリット・デメリット等についていかがか。「こんなことができればいい」といった理想についてでも構わない。

(委員 E)

- ・ 前任校ではBYODであったが、自校の端末を見ると限界に近づいている感じがする。
- ・ 現在は故障等があると学校から予備機を払い出しているが、予備機の不足により子どもの学習機会が奪われないようにという観点でBYODを導入することも考えられる。万が一のときの選択肢として、教員用の端末を含めBYODを検討する必要があると思う。高等学校のように複数の機種を斡旋することも考えられる。家庭購入の端末の場合はウイルス対策が不安であるが、喫緊の課題であると考えます。
- ・ スペックについては、現在の端末で十分であると思う。

(委員 F)

- ・ 児童の立場からすると、毎日持ち運ぶのには重いのかなと思う。特に1, 2年生にはカバンに入れて持ち帰らせるのは厳しい。

(委員長)

- ・ 軽い端末を導入するか、あるいは教材を学校に置いて帰ることも必要かも知れない。

(委員 F)

- ・ 中身など様々なことが関わるので重さだけで一概に言えないが、現場で見ていると重さの影響は大きいのかなと思う。

(委員 G)

- ・ 先生方が研究して、学習者用コンピュータの活用が進んできていると思う。
- ・ 小学校と中学校では事情が異なる。小学生にとっては初めて扱う端末なので、一律の環境で指導ができるように全員同じ機種の方が良い。中学生は個々で使いやすいものを選択できた方がいいのではないか。
- ・ 機種については、この場で決めていくのか、あるいは先生方にアンケートを実施する等学校の意見を取り入れるのか。どのようにして決定していくのかが気になっている。

(委員長)

- ・ 機種の決定について、何か方向性はあるか。

(委員 B)

- ・ 財政面の影響が大きいため、ここで委員の皆様の意見をいただき、それをベースに教育委員会で決定していく。次期学校教育計画での重要な課題のひとつになることが見込まれ、現在活用されている委員の皆様の意見は貴重であるが、全教員へのアンケートの実施は予定していない。

(委員長)

- ・ 重要な役割を担っているので、ぜひ前向きな意見をいただきたい。

(委員 H)

- ・ 中学生にとっても、端末は重いと考える。教科書がA4判になったところに学習者用コンピュータが加わり、荷物の重量がさらに重くなった。
- ・ スペックについては、時々動作が遅いこともあるが概ね気にならない。ネットワーク経由でファイルを開くと遅いときは事前にダウンロードするなど、工夫して対処できる。

(委員長)

- ・ 特別支援教育としてはいかがか。

(委員 I)

- ・ インストール可能なアプリに制限がある。複学年での授業を実施しており、また児童の転出入も多く、使用可否の線引きが難しい。

- ・ 日常的に使用させることを進めていくと、往々にして遊び道具として使用されることとなり、児童の操作性の向上には寄与しているが、使わせ方の指導について迷うところがある。
- ・ 教員研修については現在各校の裁量での実施となっている。本校は昨年度までのICTリーダーが知識豊富だったため教員のスキルを押し上げてくれ、児童たちのスキルアップに繋がったが、結局は講師役の教員のスキルに依存しているところがある。学校の裁量であると、どうしても学校間の差が生じてしまうため、ある程度は一律の研修が必要ではないか。

(委員 B)

- ・ 校内研修の内容について伺うが、比較的不得意な教員をターゲットとし、ボトムアップを狙っているということか。

(委員 I)

- ・ お見込みの通りである。
- ・ 校内以外にも研修受講の機会はあると思うが、業務多忙を理由に参加を見合わせる人が多い。そのため、教育委員会から校内研修講師を派遣してもらえるとありがたい。ICTリーダーの働き方改革にも繋がる。

(委員 B)

- ・ 例えば、講師としてICTサポーターを派遣するといった、具体的な提案ができるか。

(委員 I)

- ・ 結局人に頼ってしまうところが難しい。ここまで活用が進んでいる中、人任せにすることはできないし、得意な教員についてもICT以外にも業務を抱えており、負担となる。組織としてシステム化していくことは重要な意味を持つ。

(委員長)

- ・ 端末のスペックからICT能力を高めることに話題が移っているが、その点について、研究開発校の教員として意見等何かあるか。

(委員 D)

- ・ スペックについては特に問題ない。
- ・ 他自治体の状況と比較すると、Google Workspace for Educationの方が汎用性に優れていると思う。
- ・ ソフトキーボードを使用している自治体もあるが、キーボードデバイスがあった方が使用しやすいと感じる。また、教員用端末が変更となり気づいたことだ

が、イン・アウトのカメラ2個とタッチパッドについては次期端末でも継続していただきたい。

- ・ BYODとなったとき、児童・生徒間で他人の端末を壊すトラブルがあったときの対処が難しい。公のものと個人のものとの違いに対してうまく対応できるか不安なところがある。

(委員 A)

- ・ 良い意見を沢山いただき感謝申し上げます。このような意見を指針の策定に盛り込んでいきたい。今後も忌憚なき意見をお願いしたい。

(委員長)

- ・ 中学校の先生方はいかがか。
- ・ 授業が変わる、主体的な学びが進む、便利になる等納得する魅力があれば活用が進むのではないか。

(委員 J)

- ・ この指針は誰に向けて作成するものであるか。

(委員 B)

- ・ 学校及び市民に向けて作成するものである。学校にとってはこの方向で活用を進めていくという指針になるもの、市民にとってはマニフェストに相当するものになる。

(委員 J)

- ・ ICTに関しては保護者の方が詳しく経験豊富であり、かつ視点が広いので他の地域と比較している。そんな中、3年間の試行期間を歯がゆく見ていると思うし、実際そのような意見をいただくことがある。また、武蔵野市と他の地域との比較もされている。
- ・ 保護者にとっては、学習者用コンピュータの家庭での管理を任されていると感じており、また手詰まりを感じている。夜間の使用を制限できないし、学習用という名目である以上、どのような用途に使用していても止めることができない。そういった保護者の気持ちに寄り添った部分も指針に含めた方が良いと考えるがいかがか。

(委員 B)

- ・ そのような内容を盛り込むことは可能かと思う。内容を検討するにあたり、今後保護者向けアンケートを予定しているので、そのような意見をお聞きできるように質問項目を精査していただきたい。

(委員 J)

- ・ 保護者の声を聞き取りやすいようなアンケートにしていくということか。

(委員 B)

- ・ その通りである。意味のある指針になると思う。

(委員長)

- ・ 次回以降もご意見を伺っていく機会があると思うので、本日は次の議題に移ってもよろしいか。

(全員)

- ・ 異議なし。

② 教員・子ども・保護者へのアンケート内容の検討（資料4）

(事務局)

- ・ 指針の作成に向けて、状況把握のためのアンケートを教員・子ども・保護者の3グループに依頼する予定である。Google フォームを用いて、6月の実施を予定している。質問対象のグループを記号で表しており、教員・子ども・保護者の3グループになるべく同じ質問をすることで、どのような意識の相違があるかを確認したい。前に回答者の属性等の定量的に回答できるもの、後の方に定性的なものを並べている。学習者用コンピュータの使用の実態が把握できるものにしていければと考えている。

(委員長)

- ・ ご意見・ご質問等はあるか。

(委員 E)

- ・ 回答者の属性をどのくらい詳細に確認する想定か。

(事務局)

- ・ 学校・学年までを考えている。

(委員 E)

- ・ 自校の状況に関するアンケート結果がなかなか所属教員に伝わっていないと思う。せつかく実施するならば、他校の校名を伏せ、比較できる形で全教員に周

知していただきたい。同様に、武蔵野市民科に関する調査も周知していただくと良い。

(委員 B)

- ・ 武蔵野市全体の実態調査として全校分のデータを集計するが、教員向けには学校別の状況が分かるデータが提供されるといいということか。

(委員 E)

- ・ その通りである。管理職としては学校別の状況を確認したいし、ICTリーダーにも現状を認識していただきたい。

(委員長)

- ・ アンケートの活用方法について、指針に載せるために全体の傾向を把握すると同時に、学校の取り組み状況を振り返り、今後の改善の一助としたいというご意見をいただいた。
- ・ アンケートの内容について、ご意見はいかがか。

(委員 G)

- ・ 選択肢に具体的な動画配信サービス名が記載されているが、「動画視聴」とした方が良い。

(委員 J)

- ・ 動画視聴については、何を視聴しているかを質問に追加した方が良い。
- ・ 保護者向けのアンケートでは、自由に意見を記載する欄を設けた方が良い。

(委員長)

- ・ 委員 K はいかがか。

(委員 K)

- ・ 特にない。

(委員 E)

- ・ 保護者向けアンケートには自由記載欄が必須と考える。
- ・ 質問 7 の選択肢として「何もない」もあった方が良い。

(委員長)

- ・ 委員 L はいかがか。

(委員 L)

- ・ 特にない。

(委員 J)

- ・ 細かいところだが、教員向けアンケート質問 2 の「委員会活動」と「生徒会活動」の違いは何か。

(事務局)

- ・ 前者は学級における保健委員会・各種委員会の活動を、後者は生徒会役員の活動を念頭に置いている。

(委員 J)

- ・ 担当する教員によって回答の割合が変わってくるので、選択肢としてあまり意味がないのではないか。

(委員 D)

- ・ よく使う機能について、まなびポケットと e ライブラリは同一のものを指していないか。

(事務局)

- ・ まなびポケットにログインし、その中で e ライブラリを使用するという形態である。

(委員 D)

- ・ e ライブラリの他に eboard が使用できるので、選択肢にあると良い。

(委員 K)

- ・ 保護者向けアンケート質問 2 について、使用時間が 1 時間よりも長い人はいると思う。2 時間程度が適切かと思う。

(委員長)

- ・ たくさん意見をいただいたので、これらをもとに事務局にて修正をお願いしたい。
- ・ 活発な意見をいただき、感謝申し上げます。

③ e ライブラリ、まなびポケット等、現状サービスの検証

(事務局)

- ・ 教育委員会で整備した各クラウドサービスの検証を行うため、現在各校における使用状況ならびにご要望等をお聞かせいただきたい。

(委員長)

- ・ 現状およびご要望はいかがか。

(委員 M)

- ・ e ライブラリは、文法等の知識・技能の修得においては効果的である。自習にも活用でき役立っている。

(事務局)

- ・ 問題の総数やレベルについてはいかがか。

(委員 M)

- ・ 問題を解くたびに次のレベルに進められるし、自己採点が可能であり、特に問題ない。また、回答の解説から YouTube の動画に移動できる。

(委員 N)

- ・ 現状について校内でアンケートを実施したところ、8割以上の教員が e ライブラリ・eboard を活用していることが判明し、活用がかなり進んでいる。
- ・ 活用できていない教員についてはどちらも使用しておらず、支援が必要と感じている。

(委員長)

- ・ これらのサービスに関する要望事項も挙げていただきたい。

(委員 D)

- ・ eboard については児童・生徒の実施状況が教員から把握できないので、e ライブラリの問題が早く終了した児童が eboard を実施する等している。
- ・ ただし、ドリルサービスを導入したので紙のドリルを終了したいが、それに取って代わるほどの品質には至っていない。

(委員長)

- ・ どの点に課題があると感じるか。

(委員 D)

- ・ 問題の数が十分でないところである。毎日の学習に使用できる程度の量ではない。

(委員長)

- ・ 朝の学習には適しているが、毎日の宿題に使用できるほどではない。

(委員 D)

- ・ 算数については問題数が十分にある。漢字ドリルのように練習できると良い。

(委員長)

- ・ ゆくゆくは紙のドリルに代わって使用できると良い。
- ・ 特別支援教育ではいかがか。

(委員 I)

- ・ 現状では使い切れていない。

(委員 K)

- ・ 教科が図工なので使用していないが、最近は児童の方が学習者用コンピュータを使いこなしていると感じる。6年生が1年生向けの紙芝居を作るにあたり、動画配信サービスから動物の鳴き声を引用したり、色の補正や画像を埋め込んだりする等、高度な操作を行っていた。子どもたちに追い越された実感がある。

(委員 C)

- ・ 紙のドリルにかかる費用をドリルサービスに充てるという話もあるが、保護者からの理解を得ることができるか課題である。紙のドリルは良くできており、ドリルサービスは現在のままでは取って代わるのは難しいと感じる。
- ・ 紙のものとデジタルとのバランスをどう取っていくかは難しい問題である。先日教材に関する展示会を見学したが、内容が偏っており、知識の修得に特化していると感じた。
- ・ 逆に、そのようなサービスは知識を修得するものと割り切って、授業内容をどのようにコントロールし、どのように積み上げていくかについては、先生方の裁量にかかっている。先生の仕事を機械に取って代わることはできないと考える。

(委員長)

- ・ ロイロノートについては、汎用性があり良いと感じた。

4 その他

(事務局)

- ・ 最後に情報提供や質問をいただきたい。

(委員 E)

- ・ 学校情報システムパソコンを用いて会議を実施しているが、バッテリーの消耗が早い。副校長会で使用したが、最後までバッテリーが持たなかった。純正品アダプター以外の購入の許可か、もしくは充電しながら会議ができる環境の整備をお願いしたい。

(委員長)

- ・ 現在節約モードで使用しているが、バッテリーの残りが 25%である。

(委員 N)

- ・ 学校情報システムパソコンが校外でも使用できるようになり、周囲の教員からも大変喜ばれている。パソコンで校務ができる場所の選択肢が増えたのが嬉しい。

(委員 K)

- ・ 私の周囲からも同様の声が挙がっている。入替え直後はどうしてこんなに小さくなったのかと思ったが、持ち運びを容易にするという意図があったということを理解した。バッテリーがすぐ切れるのは働き方改革を促すものと捉えている。

(委員長)

- ・ ただし、教育委員会からは勤務時間内で完了できるように様々な配慮をいただいているので、十分に活用していただきたい。また、校外でも機密性の高い情報を扱うことが可能となるので、危険な情報を持ち帰っていることを自覚していただきたい。

(委員 G)

- ・ 持ち帰りは各教員の事情で実施している。どうしても夜遅くまでかかってしまう仕事があるときに、家庭の事情で早めの帰宅が必要な教員にとっては大変便利なものになっている。

(事務局)

- ・ 次回は 7 月 4 日を予定している。暑い中、また学期末の慌ただしいところであるが、参加をお願いしたい。